

香港

民間消費は持ち直し

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 大嶋 秀雄

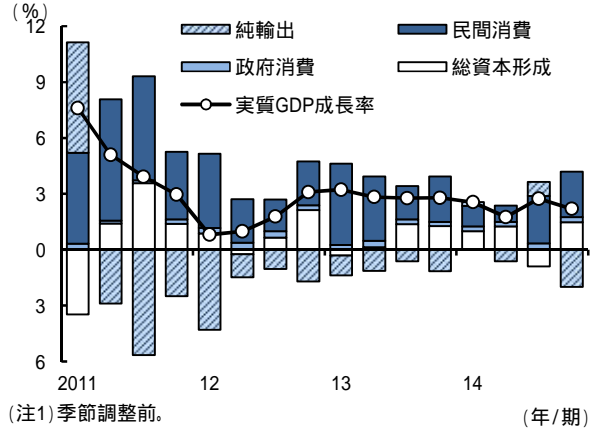
E-mail : oshima.hideo@jri.co.jp

2014年は+2.3%成長

14年10~12月の実質GDPは前年同期比+2.2%と前期(同+2.7%)から減速した(右上図)。14年通年では前年比+2.3%で前年(同+2.9%)から成長が鈍化した。

14年10~12月期の需要項目別の寄与度は、民間消費が前年同期比+2.4%ポイント(以下同じ)、政府消費が+0.3%ポイント、総資本形成が+1.5%ポイント、純輸出が-2.0%ポイントであった。中国や欧州の景気減速を背景に輸出が伸び悩んだ一方、14年上期に不動産価格の低迷や株価の下落による逆資産効果で低迷していた民間消費には持ち直しの兆しがみられる。

<実質GDP成長率(前年同期比)と需要項目別寄与度>



(注1) 季節調整前。
(出所) 政府統計處

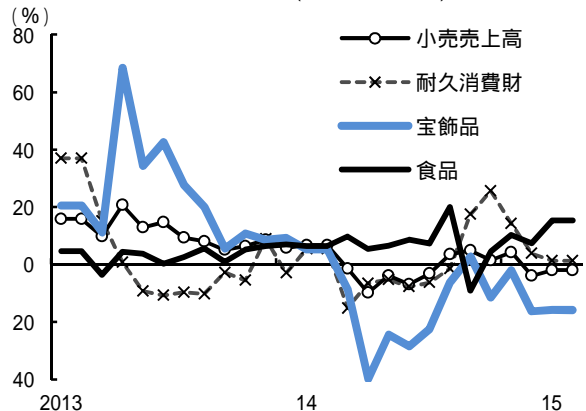
小売売上は前年割れ

足元の小売売上高をみると、15年1~2月は前年同期比2.0%(以下同じ)となり、14年12月に続き前年割れとなった(右下図)。部門別でみると、食品(+15.3%)やスーパーマーケット(+4.9%)が加速した一方、耐久消費財(+1.2%)は鈍化し、宝飾品(-15.9%)は前年割れが続いた。小売売上の低迷の要因としては、中国本土からの来訪者による宝飾品などの購買の減少があげられる。

食品などの売上は安定的に推移していることに加え、消費者の景気先行きへの見方を示す消費者信頼感指数が前年対比改善していることから、香港市民の消費マインドは悪化していないと考えられる。

中国本土からの来訪者による購買が減少している一方で、来訪者数は引き続き増加している。15年1~2月の中国本土からの来訪者数は904万人で、前年同期比+15.8%であった。来訪者が大きく伸びる一方で消費が減少している要因としては、中国の綱紀肅正政策による高級品の買い控えが指摘されているが、中国本土の富裕層の高級品の購入先が香港から欧米にシフトしている可能性もある。宝飾品売上は小売売上の約2割を占めるため、中国本土の富裕層の購買動向の変化は、香港経済に大きな影響を与えるだろう。

<小売売上高(前年同月比)>



(注2) 旧正月の影響を調整するため、1、2月は平均で算出。(年/月)
(出所) 政府統計處